

I 2012年度認証評価における指摘事項（努力課題）

該当なし

II 2016年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

キャリアデザイン学部は、発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリアの三領域からなる教育課程に基づいた教員組織の編成、年齢等のバランスに配慮し、その教育目標を明確にしたうえで、学部内で計画的・積極的にFD活動を実施し、教育方法の改善に組織的に努めている点が高く評価できる。特に、学習成果について、体験型科目の一部で、学部で開発したスケールで測定・評価の実施、SA派遣学生の派遣前後のTOEFL-ITPによるスコアの変化を可視化する取り組み、さらに学部全体による学生研究発表会の活発な実施など、積極的に学習成果を高めようとする取り組みは、他の学部の参考となる実践である。全員参加型の学部運営として『キャリアデザイン学部改善計画2015検討委員会 報告書』を作成し、学部運営を可視化する努力は大いに評価できる。

2016年度に次期カリキュラムの改革を行う予定とあるが、これまでの教育内容と方法の検証結果を踏まえ、成果の継承とさらなる改善を期待したい。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

大学評価委員会から特に改善意見は出されておらず、引き続き適切な学部運営により、教育研究の質の維持・向上に努めることとする。2015年度に完成年度を迎えた新教育課程については、2015年度末以降、教務委員会及び教学改革委員会において検討を行ってきたが、2017年度入学生から新しいカリキュラムを適用することとし、この効果検証も行いつつ、必要に応じて適宜対応を図っていくこととしている。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

キャリアデザイン学部では、2015年度に完成年度を迎えたカリキュラムについて、教務委員会及び教学改革委員会において検討を行い、2017年度入学生から新しいカリキュラムを適用するために、この効果検証も行いつつ、必要に応じて適宜対応を図っていくとしており、教育の質の維持・向上に努めている。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2016年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

- ・自己点検・質保証委員会：学部の三領域をカバーするメンバーから成る委員長および3名、計4名の委員で構成
- ・会議開催
 - ・2016年4月1日：学部FDミーティングにおいて2016年度の委員会活動の方針について教授会メンバーと協議
 - ・2016年5月20日：委員会開催～年間の委員会活動の確認と学生モニターの実施について検討
 - ・2016年6月10日：委員会開催～学生モニターの目的やモニタリング内容の詳細について検討
⇒6月17日教授会にて提案（大学予算および学部予算による2種類のモニター調査を計画）
 - ・2016年10月7日：学部FDミーティングにおいて学生モニターの準備状況について報告
 - ・2016年11月11日：学生モニター調査実施（2つのテーマに基づき各6名2グループ、計4セッション実施）
 - ・2017年1月26日：委員会開催～学生モニターの結果概要と所見を委員会にて検討・共有 ⇒執行部に報告
 - ・2017年2月27日：学部FDミーティングにおいて学生モニターの結果報告と改善点の提案を行う。併せて、2016年度の「内部質保証・自己点検チェックシート」および「年度目標達成状況報告書」について報告。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学部は、学部の三領域をカバーするメンバーから構成される自己点検・質保証委員会を設置している。3回の委員会開催のほか、学生モニター調査の実施、学部FDミーティングとの連携を通じて、内部質保証に努めている。

2 教育課程・学習成果

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士（キャリアデザイン）」を授与する。

1. キャリアデザインが求められる社会的背景、およびキャリアデザインに関する基本的な知識やアプローチの方法について幅広く理解している。
2. 特定のアプローチについては、専門的知識を有し、それを活用できる。
3. キャリアデザインに関わる社会現象や政策・施策等について、自ら研究を深め、一定の成果を残すことができる。

①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

本学部では、学位授与方針を踏まえ、以下の通り教育課程を編成・実施する。

1. 教育課程

教養教育科目と専門教育科目から構成する。教養教育科目（市ヶ谷基礎（ILAC）科目）においては、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。専門教育科目は少人数演習型授業と講義科目、体験型授業によって構成し、系統的な履修を促す。

2. 初年次教育

教養教育科目を幅広く履修することに加え、アカデミックスキルの習得を目的としながら学部の専門教育科目への関心を高めるねらいをもつ「基礎ゼミ」を1年次春学期の必修科目として位置づけ、少人数演習型授業として実施する。また、1年次から専門教育科目のうち基幹科目の履修を促す。

3. 専門教育科目

(1) 少人数演習型授業

「基礎ゼミ」の履修を前提に、調査研究法の基礎を習得する科目の履修につなげる。2年次秋学期から4年次にかけては、専門的な学びを深めることを目的とした演習（ゼミ）を設け、卒業論文の執筆を通じた研究成果の取りまとめを促す。

(2) 講義科目

「基幹」科目の幅広い履修を踏まえて「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」の3領域のいずれかを選択し、「展開」科目において専門的な学びを深めるよう促す。これらと「関連」科目をあわせた系統的な履修を促す。

(3) 体験型授業

企業・学校・コミュニティなどにおける他者との関わりを通じた体験的な学びとスキルの習得を目的とした体験型授業を必修科目に位置づけ、知識と体験の統合を促す。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい いいえ

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい いいえ

【根拠資料】※冊子名称やホームページURL等。

- ・2017年度キャリアデザイン学部履修の手引き

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・キャリアデザイン学部ホームページ http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/rinen.html</p>	
<p>③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>(～400 字程度まで) ※検証を行う組織 (教授会や各種委員会等) や検証の時期等、検証プロセスを記入。 本学部は、完成年度後の 2007 年度から新教育課程に移行した。また、教学戦略委員会の議論を受けて 2012 年度から実施した新 (々) 教育課程は、2015 年度に完成年度を迎えた。以上の改編効果をさらに向上させるため、2015 年度末～2016 年度初頭において教務委員会が、教育課程の適切性を検証しながら改革案の叩き台を作成、それを受けて 2016 年度に発足した教学改革委員会では、実行可能性を勘案しつつ改革案を絞り込み、2017 年度入学生からの適用の運びとなった。</p>	
<p>【2016 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 2017 年度からの教育課程では、第 1 に、「キャリア研究調査法入門」(1 年生秋学期) を「キャリア研究調査法」(1 年生秋学期から 2 年生春学期にシフト) の前に新設した。この準備にあたっては、2016 年の 10 月から 12 月にかけて、教務委員と「キャリア研究調査法」担当者によって、社会調査士資格 A 科目のエッセンスを凝縮しつつ、キャリアデザイン学の学びと接合するよう、授業内容を検討した。 第 2 に、各領域の入門科目 A～D は、2 年次に専攻を決定することになった領域については、A～D 全 (8 単位) を履修しなくてはならなかったものを、うち 6 単位とした。これは、1 年次に、少なくとも二領域の入門科目を、ゆとりをもって履修できるよう、一領域のみに集中して視野を狭めないよう、という配慮によるものである。 なお、ILAC 必修英語については、本学部のクラス定員が法文経営などと比べて多い状態で運用されているため、同水準の 24 人とするよう、2017 年度度冒頭に、ILAC 英語分科会/運営委員会に申し入れを行なった。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・キャリアデザイン学部 2016 年度 教務委員会作成 20160518 付資料 ・キャリアデザイン学部 2016 年度 教学改革委員会 第 1～4 回 資料 ・2017 年度キャリアデザイン学部講義概要 (シラバス) 「キャリア研究調査法入門」 p. 1</p>	
<p>2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>	
<p>①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> B</p>
<p>(～400 字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。 教育課程の編成・実施方針に基づき、学生の能力育成という観点から、各科目は適切な教育内容を提供できるように配置されている。とりわけ、専門教育において基幹的な位置を占める科目については、原則として専任教員が担当する体制をとるとともに、「キャリアデザイン学入門」「各領域の必修の入門科目」にはじまり、選択必修科目である「体験型学習科目」を経て、「演習」へとつなげている。さらに「キャリアデザイン学総合演習」で総括するという積み上げ型のカリキュラムとなっている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等 ・2017 年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部 - (1) ～ (34)</p>	
<p>②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>(～600 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修 (個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ (必修・選択等) 含む) への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。 本学部では、教養教育と専門教育を段階的に位置づけるのではなく、相互が相乗的な効果をあげることができるように、1 年次から市ヶ谷基礎科目だけではなく、専門科目を幅広く設置している。 専門科目については、1 年次から履修できる「基礎科目」、2 年次から履修できる「展開科目」「関連科目」、2 年次秋学期から履修できる「演習」、4 年次に履修できる「卒業論文」「キャリアデザイン学総合演習」を系統的に配置し、カリキュラムの順次性に配慮している。また、専門科目は、「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」の 3 領域の科目群、および体験型学習科目に分かれ、共通→分化→統合という学習の履歴を追うことができるように設計されており、カリキュラムの体系性が保たれている。 2012 年度からは新カリキュラムを実施し、これにより学生が自身の専門を意識しつつ体系的に履修することをより円滑化するとともに、2017 年度からはさらに一部改定を行っている。</p>	
<p>【2016 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア研究調査法入門」の2017年度新設を決定し(2.2③において既述)、順次性・階梯性を改善することにした。 ・なお、本学部の学生が、実際に、順次性・階梯性・体系性のある履修をするためには、履修単位上限の拘束を緩和することが肝要であることから、2017年度より、教職・資格課程科目の一部を「関連科目」から除くことで、これを実施できるよう改編した。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度キャリアデザイン学部履修の手引き「卒業するためには」学部- (2) ~ (3) ・2017年度キャリアデザイン学部履修の手引き「カリキュラム構成図」学部- (8) ・2017年度キャリアデザイン学部履修の手引き「市ヶ谷基礎科目・専門科目カリキュラム表」学部- (9) ~ (16) ・2017年度キャリアデザイン学部講義概要(シラバス)「キャリア研究調査法入門」p.1 	
<p>③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>(~400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>市ヶ谷基礎科目と専門科目をバランスよく履修することにより、専門分野に特化した人材としてだけではなく、幅広い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を備えた人材を育てることができるような教育課程の編成に留意している。また選択した個別領域を深く学ぶとともに、学生個々が領域横断的な学びを付加し幅広い専門性を修得できるようにしている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度キャリアデザイン学部履修の手引き「卒業するためには」学部- (2) ~ (3) ・2017年度キャリアデザイン学部履修の手引き「カリキュラム構成図」学部- (8) ・2017年度キャリアデザイン学部履修の手引き「市ヶ谷基礎科目・専門科目カリキュラム表」学部- (9) ~ (16) 	
<p>④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>(~400字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育として、市ヶ谷基礎科目の「基礎ゼミ」「法政学への招待」「情報処理演習」、専門科目の「キャリア研究調査法入門」(2017年度より)を配置している。高大接続への配慮については、市ヶ谷基礎科目0群の「基礎ゼミ」において、全クラスにおける標準シラバスの適用と共通テキストの活用により、基本的なアカデミックスキルズを修得することと並行して、高校生と大学生の学習・生活における違い、引用と剽窃の違い、電子メールの書き方・送り方、等について原則として専任教員が丁寧に指導している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部 (8) ~ (12) ・「基礎ゼミについて」キャリアデザイン学部2017年度FDミーティング資料：(20170407) 	
<p>⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>(~400字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>学生の国際性を涵養するために、展開科目において、3つの領域ごとに「外書講読」を配置するほか、「キャリア体験学習(国際)」においてベトナム、「SA」ではオーストラリア、ニュージーランドの大学と提携している。また、専門演習の中には、英語使用を義務づけて実施しているクラスもある。さらに、2014年度から英語強化プログラム(ERP)のコースを実施している。</p> <p>留学生の入学を拡大するために、2015年度入試から留学生定員10名の枠を設定した。2016年度入試からは、バカロレア入試や日本人学校指定校入試のほかに、従来のA0入試の枠にグローバル体験推薦入試を導入することにより留学生や国際体験をもつ日本人の入学者を増やして国際性の涵養に努めている。さらに2017年度からは海外の指定校(韓国6校)入試も導入され、これまで以上に学生の国際性を涵養する取り組みに配慮する。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度キャリアデザイン学部講義概要(シラバス) ・2017年度キャリアデザイン学部履修の手引き「体験型選択必修科目/キャリア体験学習(国際)」 学部 - (31) ・2017年度キャリアデザイン学部履修の手引き「スタディ・アブロード(SA)プログラムについて」 学部 - (121)(122) ・キャリアデザイン学部パンフレット2018(p.18) ・2018年度入学試験委員会議事 2016年4月6日「グローバル系入試の導入状況」(p.27) ・2018年度入学試験委員会議事 2016年4月6日「留学生対象指定校について」(p.29) 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 市ヶ谷基礎科目に「就業基礎力養成 I・II」、専門科目に「キャリアデザイン学入門」、「就業応用力養成 I・II」、「演習」を設置するだけでなく、すべての専門科目が、広義の意味においてキャリア教育的な効果を持つように配慮している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2017 年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部- (2) ～ (16)</p>	
2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p>	
<p><1 年次基礎ゼミ> ・授業内に、卒業を見据えた履修指導を実施 <教務委員会関連事項> ・年度の開始時に、教務委員会による学年別履修ガイダンスを開催 ・2 年生の 5 月に、教務委員会によるゼミ履修ガイダンスを開催 (ゼミ所属は 2 年生秋学期から) ・2 年生に対し、ゼミ担当教員がゼミ関連科目を示し、履修を推奨 <キャリアアドバイザー運営委員会関連事項> ・1 年生に対し、先輩学生をピアアドバイザーとする履修相談会を開催 ・全学年の学生に対して、随時、キャリアアドバイザーによる履修相談を行う体制が整備</p>	
<p>【2016 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 ・2016 年度は、前年度までの 1 年生全員を一堂に会して新入生オリエンテーションを実施する方式を見直し、基礎ゼミの授業時間内に卒業までを見据えた履修のあり方や、学部での学び等について徹底することとした。特に喫緊の実践的情報である、1 年次秋学期の必修科目 (キャリア研究調査法) の選択、2 年次春学期における 3 領域の入門科目の履修や領域選択についての説明を実施した。少人数でオリエンテーションを受けたことにより理解が深まったと評価できる。 ・年度初めの教務委員会による在学生履修ガイダンスでは、体験型クラスの説明があるが、その後の選考プロセスは相当短期間でこなざるを得ない。学生の負担感を軽減すべく、上記説明のフォーマットを統一し、各クラスの選考条件やプロセスの一覧表を作成し配布した。 ・教務委員会によるゼミ履修ガイダンス時に配付する「ゼミ履修の手引き」を改訂した。本学部のゼミは必修ではないが、例年 9 割前後の学生が応募するため、なかには、「みんなが入るから」といったように目標や意欲が曖昧だったり、応募スケジュールがしっかり頭に入っていない者もいる。そこで、2017 年度秋学期スタート版では、応募スケジュールを冒頭部分に移動し、ゼミで学ぶことの厳しさについて明示した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2017 体験型ガイダンス概要 (20170330 学生公開用) ・2017 年度秋学期スタート版 キャリアデザイン学部ゼミ履修の手引き ・2016 年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート ・2017 年度キャリアデザイン学部履修の手引き「キャリアアドバイザーより新入生のみなさんへ」学部- (35) ～ (40)</p>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。 学習指導は、ガイダンスや個別相談、ゼミや演習、それぞれの授業のなかで適切な指導が行われるように配慮している。とりわけ 1 年前期の「基礎ゼミ」は、2.3④でもふれたように、基礎能力の育成をめざして、原則として専任教員による少人数の指導体制が組まれている。2016 年度については、20 クラスの基本的なスケジュール、評価方法を基礎ゼミ代表教員が作成して授業運営の均質化を図った。クラスごとにある程度柔軟性を持たせるという判断から、①準拠するテキストを共通化する、②課題としてグループ・プレゼンテーションとレポートを各クラス必ず課す、③口頭発表の機会を 2 回設ける、④グループディスカッションなど学生参加型の学習形式を主として進める、⑤成績評価における配点は各クラス共通とする、との 5 項目を共通の運用条件として、その他の部分は、サブ教材とする文献の選択を含め、担当教員の自由裁量とした。2017 年度もこれを継続している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2017 年度キャリアデザイン学部履修の手引き「キャリアアドバイザーより新入生のみなさんへ」学部- (35) ～ (40) ・2017 年度キャリアデザイン学部講義概要 (シラバス)「基礎科目 (0 群) 基礎ゼミ」(p.6)</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

・2016 年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>学生が授業時間以外にも学習時間（予習・復習）を確保するために、シラバスにおいて自主学習の内容を提示・指示するとともに、授業時において具体的な指導を行うように努めている。特に、演習（ゼミ）は教員の裁量範囲ではあるが、時間外学習が不可欠な課題を課すことが一般的であり、これにより時間外学習を習慣づける雰囲気を作っている。提出された課題に対して教員がフィードバックをすることを繰り返すことで、質の高い学習になるよう努めるようにしている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・キャリアデザイン学部改善計画 2015 中間報告書 (p.13)</p>	
④1 年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【履修登録単位数の上限設定】 ※1 年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。</p> <p>・ILAC 科目と専門科目については、合計で、半期 30 単位・年間 48 単位を上限としている。</p> <p>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】 ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。</p> <p>・教職資格課程表あるいは資格課程開設科目表において科目名に■が付いている科目は卒業所要単位には含めず、これらを履修する場合は、ILAC 科目及び専門科目と合わせて半期 30 単位・年間 60 単位を上限として履修登録ができる。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>2017 年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部－(7)</p>	
⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <p>・1 年次「キャリア調査研究法」、2 年次「キャリア体験学習」（国内）（国際）、「キャリアサポート実習」では、学生が自ら課題を見出し積極的に課題解決する技能を身につけることができるように配慮している。</p> <p>・「地域学習支援士」では e ポートフォリオを活用した授業を実施することで、学生との双方向型の学習や評価の適正化に取り組んでいる。</p> <p>・2016 年度より、シラバスに学部独自項目【授業で求められる学習活動】を設けた。これは、「より伝統的・個人的活動」から「より能動的・協働的活動」の 9 タイプを、A～I のアルファベットで記入するものである。アクティブラーニング型授業など新たな授業形態をこれまで以上に組織的に行なうには、まずはタイプの分布を統計的に把握し、この情報共有を踏まえながら、各教員に意識づけを行なうことが効果的と考えられるためである。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2017 年度キャリアデザイン学部講義概要（シラバス） p. ii</p>	
⑥それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>少人数規模であることがとりわけ重要なのは、語学（ILAC 必修英語）、体験型授業、演習（ゼミ）である。</p> <p>ILAC 必修英語については、28+2 人まで収容を許容する運用になっているので、2.2③で述べたように、24 人を定員とするよう申し入れたところである。</p> <p>体験型授業については、その内容や授業補助者の有無によって上限人数を 20～30 人程度に設定、年度初めに開催のガイダンスをふまえたうえで選考プロセスに入っている。</p> <p>2 年秋学期開始の演習（ゼミ）については、例年、下限を 9～10 人、上限を 14～16 人程度に設定し、1～3 次募集を実施して、人数の平準化を図っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2017 年 3 月 30 日実施 キャリアデザイン学部在学ガイダンス配付資料</p> <p>・2016 年度キャリアデザイン学部教授会(20160916)教務委員会資料</p>	
⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <p>・専門科目の各科目間の関係を一覧し、学部のカリキュラム体系について非常勤講師も含めて共通理解が図られるように、学部独自に各科目の 100 文字シラバス集を作成している。</p> <p>・教務委員会によるシラバスの形式と内容のチェックを、毎年、執筆（依頼）開始の 12 月から 2 月にかけて行ない、不適切な場合には書き直しを要請することにより、内容の適切性を確保している。</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部ホームページ「100 文字シラバス」 http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/gakka/ ・2016 年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート 	
⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業改善アンケートや、授業相互参観などで組織的に実施している。執行部が授業アンケートに目を通すことや、相互授業参観では報告書を作成して教授会でも情報を共有している。 ・シラバスが学生との一種の「契約」であるという点について、学部 FD ミーティング等を通じて周知徹底をはかっている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016 年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート 	
2.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Semester 毎の学部平均の GPA は教授会場で報告・検討され、講義科目における A+の割合は、学部における申し合わせどおり、20%以内におさめるように確認している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 14 回教授会議事録（2017 年 1 月 13 日） 	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>（～400 字程度まで）※取り組み概要を記入。</p> <p>転・編入者および社会人特別入試による入学者については、他大学等における既修得単位の認定を行なっている。学部の専門科目との対応を検討し、執行部の提案を教授会で審議・決定している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 2 回教授会議事録（2016 年 4 月 15 日） 	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>（～400 字程度まで）※取り組み概要を記入。</p> <p>FD 推進センターによる GPA 平均 の情報開示を行い、個々の教員（兼任含む）に自覚を促している。</p> <p>2013 年度まで学部主催科目の GPA 平均が他学部に比べて著しく高くなっていた（平均 2.8）。この一因は、一定規模（50 人）以上の授業で、A+（20%以上）の成績評価を出している授業科目が少なくないことにあり、該当する専任・兼任教員に A+を 20%以内には是正することをもとめた。その結果、2014 年度以降、A+の割合が 20%を超える科目が減っている。</p>	
<p>【2016 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2017 年度から、英語分科会共通シラバス・ガイドラインに従ったシラバスの執筆を、本学部の英語授業担当者にも徹底することにした。これと並行して、ILAC 必修英語の兼任担当教員と本学部主任・教務委員とで懇談会を年 2 回程度開催し、各担当クラスの成績分布を報告しながら、情報を共有した。必修英語は習熟度クラスであるがゆえの成績評価の難しさがあるため、シラバス・ガイドラインをふまえつつ、今後も議論を重ねる予定である。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 14 回教授会議事録（2017 年 1 月 13 日） ・第 10 回教授会教務委員会資料（2016 年 10 月 07 日）「英語分科会共通シラバス・ガイドラインについて」「英語兼任講師懇談会について」 	
④学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職状況については、学部として実態を把握し、就職委員会による分析を教授会全体で共有している。 ・キャリアアドバイザーとも連携しながら、適切な就職支援を行なっている。 ・具体的には、キャリアセンターから提供を受けた卒業生の進路データをもとに整理してデータ化をした。そのデータは全教員が共有するとともに、キャリアアドバイザーを通じて学生の進路相談にも活用している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部パンフレット 2018 「業種別就職先」「卒業後の進路」（pp. 20-21） 	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・2016 年度キャリアアドバイザー報告（2017 年 4 月 7 日 FD ミーティング資料）	
2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績分布、進級については、学部として実態を把握し、留年者、卒業留保者に対しては、キャリアアドバイザーによる面談を実施している。 ・低単位取得者に対する面談も実施している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部ホームページ「キャリアアドバイザー制度」 http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/adviser.html ・抽出資料及び本人宛通知（学務） 	
②学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験型科目（一部）における Career Action Vision Test に基づく測定・評価：CAVT は、学部で開発した評価規準・方法であり、これに基づいて成果の検証を行なっている。 ・SA 帰国前後の語学テスト：TOEFL-ITP（level 2）では、派遣学生 10 名全員がスコアを伸ばした（平均 37%アップ）。 ・SA 帰国直後の報告会実施：学生に現地での学びや生活について英語プレゼンを行わせた。なお、参加者へのヒアリングにより、直後の語学力の向上だけでなく、例えば授業態度、発言力、思考のあり方、国際的な人的ネットワーク等へのポジティブな影響が挙げられ、広範囲な効果があることが確認された。 ・専門演習（卒業論文等）の研究発表会：全てのゼミ生（2・3・4 年生）が参加する学部全体の発表会である。第 11 回発表会は、2017 年 1 月 29 日（日）に開催され、当日は 10 会場に分かれて各会場 5～6 本ずつ発表が行われた。全発表終了後には当該教室の複数の教員が講評を述べるというかたちで、評価を行なった。この学生研究発表会は内容的に年々充実してきており、今年度も、キャリアデザインに関わる社会現象や政策・施策等について、自ら研究を深めた発表が多かったと評することができる。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアサポート事前指導テキスト 2017 ・キャリアデザイン学部パンフレット 2018（p.18） ・2016 年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート ・2016 年度 キャリアデザイン学部学生研究発表要旨収録 	
③学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入（取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門演習（卒業論文等）の研究発表会 上記 2.6②で記述した発表会では、29 ゼミから 54 発表という多くのエントリーがあった。り、当日、各会場 では 1 発表あたり発表 20 分+質疑応答 10 分の時間が割かれ、同じ教室の他ゼミ生が司会とコメンテーターを務めた。 ・体験型科目（インターンシップ、ベトナムなど）、「地域学習支援士」の成果報告 ・学生活動サポート奨励金（学生サポート助成）制度は、学生の自主的活動の促進を目的に設けられた制度である。2016 年度には 10 団体が奨励金助成を受け、独自性のある活動を展開した。 <p>【2016 年度新規取り組み事項、前年度から変更や改善された事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部連続シンポジウム第 17 回「シティズンシップ教育とキャリア教育を繋ぐ——大学と高校の対話の試み」 従来、同シンポジウムは外部有識者・実践家と本学部教員が登壇することが多かったが、今次シンポジウムでは、これに加えて、「発達・教育」「ビジネス」「ライフ」の各領域から 1 ゼミずつ、学生や卒業生も登壇し、研究・実践成果を報告した。学生の参加者も多く、会場アンケートでは、学生からは学習への動機づけが得られたこと、高校教員・大学教員・ビジネスマンからは高いパフォーマンスへの評価が記されたものが多かった。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・2016年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート ・学生サポート助成2016年度実績報告、『生涯学習とキャリアデザイン』Vol.14-No.2 ・キャリアデザイン学部連続シンポジウム第17回の記録、『生涯学習とキャリアデザイン』Vol.15-No.1（2017年秋発行予定） ・2016年度キャリア体験学習ベトナム論文集 ・2016年度キャリア体験学習報告集 	
2.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
① 学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部設置以来、4年～5年に一度カリキュラム改定を行っており、新カリキュラムの検討の際には、従来の教育課程のもとでの教育成果について、時間をかけた検証・検討を行なっている。 ・教務委員会とともに質保証委員会が、執行部との連絡を密にしつつ検証を行なう体制を整えている。 ・2012年度から開始した新カリキュラムが2015年度に完成年度を迎えたので、2016年度は教学改革委員会を発足させて、2017年度からのカリキュラム改訂の準備作業を行なった（既述）。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部改善計画報告書（2016年3月） ・キャリアデザイン学部2016年度 教務委員会作成20160518付資料 	
② 学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【利用方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FDミーティングの場で、学部の平均スコアの開示、学生による自由記述の紹介を行い、それを材料にして意見交換を実施するなど、有効活用を図っている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
(a) 2016年度、教務委員と教学改革委員を中心にカリキュラム改編案（マイナー改編）を議論し、2017年度より実施。主な改編事項は、「キャリア研究調査法入門」の新設である。これにより、カリキュラムの順次性・階梯性を改善した。 (b) 年度初めの学年別履修ガイダンスおよびゼミ履修ガイダンスを精緻化した。 (c) ILAC必修英語に関して、英語分科会共通シラバス・ガイドラインの徹底、必修英語担当兼任講師との懇談会における成績分布データの共有と情報交換を行なった。 (d) 学部シンポジウムにおける学生および卒業生の登壇による学習成果の可視化を行なった。	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・(2)特記事項(a)～(d)については、引き続き、状況の把握と改善方法の検討に努める。 ・上記以外には、以下の2点が課題として挙げられる： <ul style="list-style-type: none"> ・体験型選択必修科目についての情報共有及び連携の強化：これは昨年度の学生モニター調査により、問題の所在がより明確化した課題である。「体験」は高い個別性を特徴とするため、機能する共通の評価規準の策定という、必ずしも容易ではない作業に取り組んでいく。その大前提として、授業担当者・関係者間での情報共有および連携の強化が必要である。 ・「キャリア体験（国際）」の検討：2016年度の一年間をかけて体験の中味を精査した結果を踏まえ、2018年度以降の実施に向けて検討中である。
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (2.1～2.2)

キャリアデザイン学部では、学位授与方針で定めた学習成果の修得を達成するため、教育課程の編成・実施方針を踏まえて、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目標とした教養教育科目（市ヶ谷基礎（ILAC）科目）と少人数演習型授業と講義科目、体験型授業からなる専門教育科目を設置し、教養科目から専門科目への系統的な履修を促している。

教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性については、質保証委員会によりその検証のための「内部質保証・自己点検チェックシート」が作成され、これを踏まえた議論を教授会メンバー全員で行うなど、適切に検証が行われている。

②教育課程・教育内容に関すること (2.2)

キャリアデザイン学部では、入門科目にはじまり、体験型学習科目、演習へとつながる積み上げ型のカリキュラムを構成しており、専門科目は、共通→分化→統合という学習の履歴を追うことができるように設計されており、カリキュラムは全体として系統性とともな体系性が保たれている。

2017年度からの新たな取り組みとして、教育課程において、「キャリア研究調査法入門」を「キャリア研究調査法」の前に新設し、社会調査士資格 A 科目のエッセンスを凝縮しつつ、キャリアデザイン学の学びと接合するよう授業内容を検討した点、および1年次に少なくとも2領域の入門科目をゆとりをもって履修し、一領域のみに集中して視野を狭めないよう配慮している点が高く評価できる。

初年次教育においては、教養教育科目を幅広く履修することに加え、専門教育科目への関心を高めるねらいをもつ「基礎ゼミ」を必修科目として位置づけ、少人数演習型授業として実施している。専門教育科目においては、少人数演習型授業、「基幹」から「展開」への系統的な講義科目、企業・学校・コミュニティなどにおける体験型授業を設置し、知識と体験の統合を促している。

高大接続については、「基礎ゼミ」において高校生と大学生の学習・生活における違い、引用と剽窃の違い、電子メールの書き方・送り方などについて丁寧に指導するなどの適切な配慮がなされている。

学生の国際性の涵養については、「キャリア体験学習（国際）」において海外の大学と提携した活動を開始したほか、2017年度からは海外の指定校（韓国6校）入試を導入し、内なる国際化に着手した点も評価できる。

また、学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力の育成について、ILAC科目の「就業基礎力養成Ⅰ・Ⅱ」から専門科目の「キャリアデザイン学入門」、「就業応用力養成Ⅰ・Ⅱ」、「演習」まで、すべての専門科目において広義のキャリア教育を実施している点が高く評価できる。

③教育方法に関すること (2.4)

キャリアデザイン学部では、ピアアドバイザー、キャリアアドバイザーによる個別指導に加え、2016年度からは、1年生全員を一堂に会して実施する新入生オリエンテーションの方式を見直し、基礎ゼミの授業時間内で卒業までを見据えた学部での学びをきめ細かく指導するなど、学生の学習指導が適切に行われている。

学生が授業時間以外にも学習時間（予習・復習）を確保するために、シラバスにおいて自主学習の内容を提示・指示するとともに、特に演習などの授業時において具体的な指導を行うように努めている。

授業形態に即して、1授業当たりの学生数が配慮されており、また、履修登録単位数の上限についても適切なキャップ制が導入されている。

効果的な授業形態の導入については、「地域学習支援士」において学生との双方向型の学習や評価の適正化のために ICT が継続的に活用されていることが評価される。

シラバスについては、教務委員会によるチェックのほか、学部のカリキュラム体系について非常勤講師も含めて共通理解が図られるように、学部独自に各科目の100文字シラバス集を作成している。また、学生による授業改善アンケートや、授業相互参観などを通して、シラバスに則した授業内容の組織的な検証が実施されている。

④学習成果・教育改善に関すること (2.5～2.7)

キャリアデザイン学部では、講義科目における A+ の割合や他大学等における既修得単位の認定など、単位認定が適切に行われている。2017年度から、市ヶ谷リベラルアーツセンター英語分科会共通シラバス・ガイドラインに従ったシラバスの執筆を、本学部の英語授業担当者にも徹底するなど、厳格な成績評価に関する積極的な取り組みが行われている。

学生の就職・進学状況の把握、学位授与方針に明示した学生の学習成果の把握および可視化も適正になされている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

学習成果を検証し、その結果をもとに教育の改善に向けた取り組みについては、教務委員会とともに質保証委員会が、執行部との連絡を密にしつつ検証を行なう体制を整えている。

FD ミーティングの場で、学部の平均スコアの開示、学生による自由記述の紹介を行うなど、学生による授業改善アンケートの結果が積極的に活用されている。

3 学生の受け入れ

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

本学部の教育目標を理解した者であって、下記の資質・能力を備えた学生を受け入れる。

- ・高校までに履修する科目について、入学時に十分な基礎的知識を身につけている
- ・現実の社会の在り方とその中での人々のキャリアに関心をもっており、学問的に考察を深める意欲をもっている
- ・多様な他者の価値観を尊重したうえで、多様な人々と主体的に関わる意欲をもっている

多様な学生が関わりあう中で学びあうことを重視する観点から、下記の通り、様々な入試経路を通じて多様な学生を受け入れる。

- ・一般入試（A方式、T日程および大学入試センター試験利用入試）：
十分な基礎的知識にもとづく思考力・判断力・表現力を備えている
- ・推薦入試（指定校推薦、付属校推薦、スポーツに優れた者の特別推薦入試）：
十分な基礎的知識をもち、本学部における学びへの高い意欲をもっている
- ・特別入試（キャリア体験特別入試（自己推薦）、グローバル体験公募推薦入試、商業学科対象公募推薦入試、国際バカロレア利用自己推薦入試）：
十分な基礎的知識をもつとともに、多様な経験を積んでおり、自らの関心や学びの展望についての確に表現することができる

① 求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

① 定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

2015年度までは適正な学生数を維持してきたが、2016年度入学者数が定員を大幅に超過したことに伴い、1年次春学期の基礎ゼミを専任教員の対応により増コマとし、2年次秋学期以降4年次までの演習は、受け入れ人数を増やすことに伴う指導の質の低下を回避するため、兼任講師7名によるゼミを新たに開講して対応することとしている。なお、2017年度の一般入試の合格者数は前年度実績を踏まえて絞り込み、2017年度入学者数は312名と適正水準となった。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・第1回 2018年度 入学試験委員会議事（2017年4月6日「入学定員超過率」（別冊資料8）

定員充足率（2012～2016年度）

（各年度5月1日現在）

種別\年度	2012	2013	2014	2015	2016	5年平均
入学定員	280名	294名	294名	294名	294名	
入学者数	280名	301名	321名	287名	421名	
入学定員充足率	1.00	1.02	1.09	0.98	1.43	1.10
収容定員	1120名	1134名	1148名	1162名	1176名	
在籍学生数	1213名	1192名	1243名	1261名	1400名	
収容定員充足率	1.08	1.05	1.08	1.09	1.19	1.10

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
 ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】※医学・歯学分野は省略

提言	努力課題	改善勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20 以上	1.25 以上
上記以外の分野	1.25 以上	1.30 以上

【定員未充足の場合】

提言	努力課題	改善勧告
すべての分野共通	0.9 未満	0.8 未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018～
入学定員超過率	1.20 以上	1.17 以上	1.14 以上	1.10 以上
収容定員超過率	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上

3.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400 字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

入学経路ごとの学生の成績を比較して、教授会を中心にして絶えず検証している。また、一般入試による合格者の偏差値を経年的に点検している。指定校推薦の入学生については、入学後の成績等を検討し問題があると思われる高校に関しては今後の推薦についての注意喚起を促す文書を送り、推薦入学者の質の確保につなげることとしている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2016 年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート
- ・2017 年度第 2 回教授会議事録 (2016 年 4 月 21 日)

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・2016 年度入学者数の大幅増加が学生の教育に不利益をもたらさないよう、増コマとなった授業については、その質保証について適切に対応することとしたい。

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学部では、2012 年度から 2016 年度までの 5 年間の入学定員超過率が平均 1.10 と適正水準に保たれており、2016 年度に大幅な入学定員の超過があった際も、専任教員による基礎ゼミを増コマし、また、演習は受け入れ人数を増やすことに伴う指導の質の低下を回避するため、兼任講師 7 名によるゼミを新たに開講するなど、適切な対応がなされている。

学生募集および入学者選抜の結果については、入学経路ごとの学生の成績の比較、一般入試による合格者の偏差値の経年的な点検、指定校推薦の入学生に関する入学後の成績の調査などを通して定期的な検証がなされている。

4 教員・教員組織

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【求める教員像および教員組織の編制方針】（2011年度自己点検・評価報告書より）

キャリアデザイン学部の教員に求められるのは、理念・目的についての基本的理解に立ったうえで、自らの研究および教育を遂行することのできる高い能力と倫理性であり、学部の教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえた教育活動や学生指導を行なう意欲と専門的な力量である。また、個人として研究・教育を遂行するだけでなく、教員間の組織的連携やチームとしての研究・教育の実施に積極的に参加し、貢献することが求められる。教員組織の編制においては、各教員の専門性や適性を踏まえつつ、学部運営および教育においてその一翼を主体的に担えるように配慮すると同時に、教員間の組織的連携によって学部運営および学生に対する教育に学部全体で責任を負うという体制を築いていく。そのために、チームとして取り組む各種委員会活動やFD活動等を通じて、教員組織に「同僚性」の文化を育て、各教員の力量形成と教員集団としての教育力の向上が相乗的に期待できるような「学習する組織」を築いていく。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

・専任教員採用、兼任教員採用についての教授会内規（pp.11-13）

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・教授会執行部4名（学部長1名、教授会主任1名、体験型選択必修科目担当1名、教授会副主任1名）
- ・教授会（原則として月2回開催）
- ・教務委員会
- ・学部FDミーティング（定例年3回）：教育の進捗状況を組織的に点検。
- ・質保証委員会：学部全体については「自己点検表」を、各委員会等については「キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート」を用いて点検し、その内容を学部FDミーティングで報告し内容を共有している。
- ・授業FDミーティング：重点課題となる科目（必修英語）の兼任講師によるミーティングを実施

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート

4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

① 学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

（～400字程度まで）※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

本学部の教育課程は、発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリアの三領域からなる。学部設立時の構想を現在まで踏襲しており、教員組織は、三領域のバランスが適切に配慮されている。専任教員29名、発達・教育キャリア10名、ビジネスキャリア10名、ライフキャリア9名（うち1名が欠員）となっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・大学案内2018（p104）
- ・キャリアデザイン学部パンフレット2018（pp.6-11）
- ・2017年度キャリアデザイン学部履修の手引き「2017年キャリアデザイン学部専任教員」 学部 - (135) - (159)

②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。

はい いいえ

（～400字程度まで）※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

2013年度にキャリアデザイン学研究科が大学院経営学研究科キャリアデザイン学専攻から独立したことから、それまで以上に学部教育と大学院との連携をはかるようにしている。具体的には、学部教授会において毎回、大学院研究科長から大学院関係事項が報告され、学部全教員への周知と意思疎通を行っている。また、「学部改善計画2015検討会」では今後の学部と大学院教育との連続性や連携のあり方を確認し、具体的に検討することや、学部執行部と大学院執行部との懇談の場を設けている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・キャリアデザイン学部改善計画 2015 中間報告書 (pp. 25-26)

2016 年度専任教員数一覧

(2016 年 5 月 1 日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
キャリアデザイン	22	6	0	0	28	17	9

専任教員 1 人あたりの学生数 (2016 年 5 月 1 日現在) : 50.0 人

③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】(～200 字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

新任教員の人事の際には、年齢バランスを適切化することに配慮した選考・採用を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

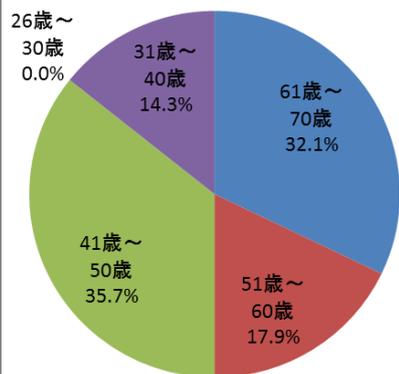
・大学評価支援システム大学便覧データ (2016 年 5 月現在)

年齢構成一覧

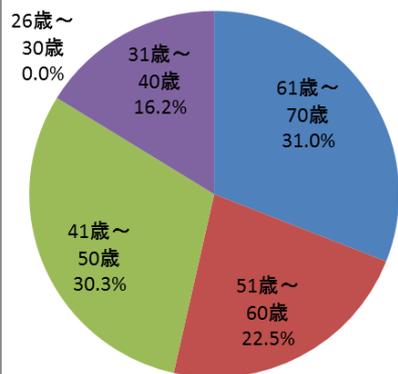
(2016 年 5 月 1 日現在)

年度\年齢	26～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳
2016	0 人 0.0%	4 人 14.3%	10 人 35.7%	5 人 17.9%	9 人 32.1%

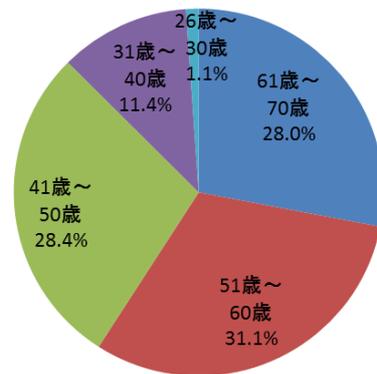
年齢構成比
(2016年度CD学部)



年齢構成比
(CD学部過去5年平均)



年齢構成比
(2016年度全学部平均)



4.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・専任教員採用、兼任教員採用についての教授会内規 (pp. 11-13)
- ・「教授・准教授・専任講師の任用(昇格)に関する基準」「専任教員の任用に関する基準」「任期付教員の任用に関する基準」

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等(非公開)を添付することでも可。

専任教員の募集は、原則として公募で行われており、専任教員の採用や昇格の人事は、学部教授会と研究科教授会が定めた内規に基づいて厳格に行われている。

4.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部(学科)内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

・学部FDミーティングは全専任教員およびキャリアアドバイザーを含めて定期的な年3回実施しており、そのほかにも随時必要に応じて会議を開催している。

【2016年度のFD活動の実績(開催日、場所、テーマ、内容(概要)、参加人数等)】※箇条書きで記入。

- ・学部FD定例ミーティング

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

第1回（4月1日開催、キャリア情報ルーム、出席者27名（欠席1名、公務出張者2名））

学部長から新年度の運営方針が示され、特に新カリキュラムを中心に各科目担当者から現状と課題の報告、各委員会からの活動実績と活動計画、学部シンポジウム、新入生オリエンテーション、キャリアアドバイザーの取り組み状況、キャリアデザイン学会研究会の予定などが示された。

第2回（10月7日開催、キャリア情報ルーム、出席者25名（欠席3名、公務出張者2名））

学部長から年度当初の学部計画の半年後の点検、質保証委員会による中間報告、教務委員会からゼミの状況報告（就職活動を行っている4年生のゼミ参加等についての調査結果報告を含む）、学部広報の効果、就職支援の報告などが行われた。

第3回（2月24日開催、キャリア情報ルーム、出席者28名（公務出張者2名））

質保証委員会から今年度の学部教育活動についての評価と改善策が提案されて全教員に周知され次年度の課題を確認した。

- ・ 執行部と教務委員会による ILAC 英語担当教員との FD ミーティングの実施
- ・ 授業相互参観（ピアレビュー）の実施：専任教員が、他の専任教員の授業を参観。時間割の一覧を作成して参加を促した。公開科目に対する実施科目の割合は2割弱。
- ・ オムニバス授業における担当者間の定期的な情報交換・意見交換
- ・ 複数開講科目でのシラバス内容の共有、反省点・改善点のディスカッション等
- ・ なお、教員の事務的な業務負荷が増える傾向があり、それによって教育研究の質の維持が阻害されることが懸念されるようになってきた。このため、学部運営等にかかる各委員会所掌の事項に関しては委員会において集中的に議論を深めることにより教授会での審議を重要なポイントに絞ることで、意思決定の効率化を図るとともに、2017年度からは教授会のペーパーレス化を進めるなど事務の効率化のための業務改革を進めている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ FD ミーティング議事録（2016年4月1日、同年10月7日、2017年2月24日）
- ・ 2016年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート

（2）特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
特になし	

（3）現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※（1）～（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・ 専任教員1名が欠員となっており、2017年度には適切な人材を採用する。
- ・ 教員の事務的な負荷が高まることによる教育研究活動への悪影響を回避するために、効率的な学部運営のあり方について検討し必要な施策を実施する。

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学部では、採用・昇格の基準等について、専任教員採用、兼任教員採用についての教授会内規が定められている。また、組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にするとともに、発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリアの三領域について、教員組織のバランスが配慮されている。

大学院教育との連携については、学部執行部と大学院執行部との懇談の場を設けるなどして配慮がなされている。

新任教員の人事については、年齢バランスを適切化することに配慮がなされている。現在欠員となっているライフキャリアの専任教員1名については今年度適任者が補充されることを期待したい。また、学部内のFD活動については、学部FD定例ミーティングを複数回実施するなど、適切に行われている。

5 学生支援

【2017年5月時点の点検・評価】

（1）点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

生支援は適切に行われているか。	
①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。 ・卒業・卒業保留および休・退学者の学籍移動に関しては学部として把握している。 ・退学者の退学理由によっては、執行部が面談を行う体制をとっている。 ・留年者・卒業保留者・低単位取得者に対しては、キャリアアドバイザーによる面談を実施している。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2016年度キャリアアドバイザー報告（2017年4月FDミーティング資料）	
②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
（～400字程度まで）※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。 ・初年次教育の一環として、クラス担任制のもと、新入生・1年次の基礎ゼミを1クラス約20名で行っている。基礎ゼミでは、学習面だけでなく、大学生活全般に関するガイダンスを行ったうえで、授業内容も高校から大学への学びの質・量の変化に焦点を当てた教育を行っている。授業外の修学支援（事前・事後学習支援）として、学部の専任・兼任教員ともにオフィスアワーを1時限（90分）程度設けている。必修科目である体験型科目では、担当教員の他、キャリアアドバイザーによる支援を受けられる体制を整えている。 ・また、2年次秋学期以降については、所属する専門のゼミにおいて、ゼミ教員がクラス担任的な役割を引き続き担いつつ、卒業までの就学支援を、丁寧に行なっている。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2016年度キャリアアドバイザー報告（2017年4月FDミーティング資料） ・2016年度自己点検シート	
③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
【成績不振学生への対応体制および対応内容】 ※箇条書きで記入。 ・低単位取得者、留年者、卒業保留者については、キャリアアドバイザーが面談を行い、適切な対応をしている。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2016年度キャリアアドバイザー報告（2017年4月FDミーティング資料）	
④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
（～400字程度まで）※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。 ・1年次に、留学生を含めすべての学生に対してキャリアアドバイザーによる面談を行っている。また学生の要請に応じて、国際交流委員会が留学生の個別相談に対応できる体制を整えている。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2016年度自己点検シート ・2016年度キャリアアドバイザー報告（2017年4月FDミーティング資料）	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学部では、退学者に対してはその理由によって執行部が、留年者・卒業保留者・低単位取得者に対してはキャリアアドバイザーがそれぞれ面談を実施し、状況の把握に努めている。 学生の修学支援として、1年次の基礎ゼミの担任制、オフィスアワー（90分）の設定、体験科目における担当教員、キャ
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

リアアドバイザーによる支援、専門ゼミ教員のクラス担任的役割など、卒業までの継続的かつ丁寧な対応がなされている。また、成績不振の学生や外国人留学生に対する支援についても適切になされている。

IV 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準		教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等		2012年度から実施している新しい教育課程の完成を目指す。そこにおいて、学生が自らの重点的な専門性を形成できるような指導体制を整える。具体的には、①新カリキュラムの完成年度に合わせてその総括をする、②必修英語の質保証をはかる、③ICT教育の質保証をはかる、との対応をとる。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	①教学改革委員会を組織し2012年度から開始した新カリキュラムを総括し、FDミーティングなどで報告された。さらにカリキュラムの一部を改訂し、2017年度から修正したカリキュラムを作成した。 ②執行部と教務委員会により英語担当教員とのFDミーティングを実施した。 ③新カリキュラムで調査法の現状を踏まえ科目を拡充した。
	質保証委員会による点検・評価	おおむね達成された。年度はじめに開催されたFDミーティングで今年度取り組むべき内容を教員およびキャリアアドバイザーで共有し、それに基づいて年間の作業を進めることができた。予定どおり年度半ばまでに、教学改革委員会を中心にこれまでのカリキュラムの総括を行い、必修科目の見直し、不足科目の新規設置(調査法入門等)、担当教員の配置等の作業を完了した。なお英語担当教員とのFDミーティングの成果、およびICT教育の質保証の結果分析については、引き続き次年度も検証していく必要がある。
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		・新しい教育課程の実施による教育効果を高めるための教育方法を開発する。具体的には、①外部の企業、役所、教育機関、NPOなどとの連携をとり、有効な教育方法として活用する体制を整える、②専門科目のGPAの適正化をはかる、③アクティブラーニングの取り組みをはかる、といった対応をとる。 ・また、2016年度の入学者数(定員294名)が421名と大幅に超過したことに対して、学部教育の質を維持するために増コマや、関連する必要な対策を講じることが緊急の課題となる。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	①体験型選択必修科目は外部との連携をしているが、その有効性については今後さらに検討したい。 ②大規模授業における成績評価を適正化することをFDミーティングなどで検討、周知した。 ③教務委員会にアクティブラーニング授業の開発を検討し担当者を配置した。 ・1年生(入学者数:421名)の少人数の必修授業(基礎ゼミ、調査法)の増コマや、大人数授業にはティーチングアシスタント(TA)を増員した。
	質保証委員会による点検・評価	おおむね達成された。①体験型選択必修科目については、質保証委員会による学生モニタリングのテーマにも設定し、その有効性を検証した。ただし、外部諸機関との連携については、各授業の担当教員によって独自に進められている部分も大きく、その全体像がなかなか理解・共有されにくいと、今後はもう少し情報を開示しながら検証していく必要がある。②大規模授業を中心にGPAの適正化についてたびたび注意が喚起されたため、かなり周知がなされてきた。今後も引き続き留意していく必要がある。③教員間ではアクティブラーニングの導入に対する認識が高まってきているが、シラバスに記載したマークはいまだ学生たちに十分に浸透していないため、今後はさらに周知を図る必要がある。・入学者数の大幅な増加については、基礎ゼミ等の増コマでほぼ対応できた。また次年度に向けてゼミ数を増やすなどの対策も完了したが、今後はその円滑な遂行に留意していく必要がある。
評価基準		成果
現状の課題・今後の対応等		本学部の教育目標の達成をはかるとともに、きめ細かい就職支援を実施する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	キャリアアドバイザーによる取り組みや、就職委員会による説明会、学生と企業の人事担当者などとの交流会を実施した。
	質保証委員会による点検・評価	おおむね達成された。キャリアアドバイザーによる学習支援や就職活動支援を進めるとともに

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	よる点検・評価	に、就職委員会を中心に、就活の事前説明会や企業の人事担当者との交流会開催など、学部 の特性に合った独自の取り組みを行った。引き続き同様の支援を行うことが望ましい。
評価基準		学生支援
現状の課題・今後の対応等		2016年度の入学人数（定員294名）が421名と大幅に超過したことに対して、学部教育の質 を維持するために増コマや、関連する必要な対策を講じることが緊急の課題となる。
年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	・前述したもの以外に、キャリアアドバイザーによる1年生全員の面談指導を実施した。 ・FDミーティングにおいて1年生の必修科目に関して教員間で授業内容の共有、反省点、改善点などを検討した。
	質保証委員会による点検・評価	おおむね達成された。カリキュラム改革の機会を活用し、学部の教育が目ざすものについて 全教員が改めて議論する場を設けることができた。また大幅な入学人数増に対しては、向こう 四年間に必要なコマ増等の対策がほぼ完了したため、今後はその円滑な実施を心がけていく 必要がある。

【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

キャリアデザイン学部では、2012年度から実施している新しい教育課程の完成という目標について、FDミーティングにおいて取り組むべき内容を教員およびキャリアアドバイザーで共有し、年間の作業を進めるなどして着実に達成している。

これに関わる新しい教育課程の実施による教育効果を高めるための教育方法の開発について、体験型選択必修科目の外部との連携といった方法の有効性を中心に、今後さらなる検討および検証が行われることが期待される。

また、本学部が実施しているキャリアアドバイザーによる取り組みや就職委員会による説明会、学生と企業の人事担当者との交流会の実施など、本学部が実施しているきめ細かな就職支援は、積極的な対策として高く評価できる。

【大学評価総評】

キャリアデザイン学部においては、2016年度から1年生全員を一堂に会して新入生オリエンテーションを実施する方式を見直し、少人数の基礎ゼミの授業において、卒業までを見据えた履修のあり方や、学部での学び等について個別で丁寧な指導を行っている。こうした指導が、1年次秋学期の必修科目（キャリア研究調査法）の選択や2年次春学期における3領域の入門科目の履修および領域選択に活かされている。こうした新たな取り組みは、他の学部の参考となる実践として高く評価できる。

また、就職支援に関して、キャリアアドバイザーによる取り組み、就職委員会による説明会、学生と企業の人事担当者との交流会の実施など、本学部の独自性を活かした積極的かつきめ細かな指導がなされており、こうした点についても優れた実践例として高く評価できる。

企業・学校・コミュニティなどとの関わりを通じた体験的な学びとスキルの習得を目的とした体験型授業を必修科目に位置づけ、知識と体験の統合を促すカリキュラムは、本学部の特性を活かした優れた実践であり、キャリア教育に向けての大きな柱となることが期待される。こうした体験型選択必修科目に関して、外部との連携のあり方を今後さらに検討していくことが期待されるとともに、その有効性に関する検証についても引き続き取り組むべき課題であると考えられる。

さらに、学生の国際性を涵養を目的とした「キャリア体験（国際）」についても、体験型科目との連携を図りながら、2018年度以降の実施に向けて、検討を進めていくことが期待される。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。